

平成28年度 宮崎県立農業大学校 学校経営方針及び目標設定（案）

教 育 目 標	方 針	平成28年度 重点取組
【自律】経営能力を身につけ、国際化に対応しうる自律心の強い社会人を養成する。 【創造】21世紀の農業を拓く、創造力豊かな社会人を養成する。 【協調】学校生活を通じ、協調性に富む社会人を養成する。	【就農に自信と誇りの持てる学校】 (1) たくましい実践力を備えた即戦力となる農業者の育成 (2) 農業大学校で学んだ者が農業に果敢に挑戦できる環境の創造	(1) 入学定員(65名)の確保に努めます。 (2) 儲かる農業を実現する確かな生産技術や経営能力を備えた実践力のある農業経営者を育成します。 (3) きめ細かな進路指導により学生の100%進路実現を図ります。

設置根拠 農業改良助長法第7条5項の規定に基づく「農業者研修教育施設」
学校教育法第124条の規定に基づく「専修学校」

	評 価 項 目		平成28年度目標	目標達成のための方策	昨年度の主な実績・成果と課題
学校全体	入口対策 (新入生確保)	志願者数の確保	○就農に意欲のある入学者の確保 ○65名定員の確保	○高校訪問、学校説明会・ガイダンスへの参加 ○在学生の出身校への情報提供	【実績】 ○定員65名に対し、63名が入学(70名合格)
		学校PR	○学科改編の周知、教育内容PR ○積極的な情報の発信	○SNSを活用した学校情報の発信 ○マスコミ(新聞・TV等)の積極的な活用	【成果】 ○SNSによるタイムリーな情報発信が好評
	学校教育 (特色ある取組)	教育課程 (講義・実習)	○新たな教育内容の実施に向けた特色ある学習カリキュラムの編成 ○経営を重視した指導体制及び施設の整備	○新たなカリキュラムの編成 ○新設科目や模擬会社等の検討・設置 ○新たな教育内容を展開するための指導体制及び施設の整備	【成果】 ○新学科・専攻が決定(H29より新設) ○高校生・高校教員の意見を参考に学科改編の方向性を決定
		担い手育成事業 (高大連携)	○高大連携事業の推進 (具体的な取組の実施)	○高大連携協定を締結している高鍋農業高校との連携事業の実施 ○農業高校での授業参観や意見交換会の実施	【成果】 ○合同オープンキャンパスや地域連携型プロジェクト学習など具体的な高大連携事業の取組内容作成
		自治会活動	○自治会活動を通じた学生の自主自立の確立	○自治会役員会の定期的な実施 ○各部会毎の積極的な活動推進 ○自主自立を目指した全学生への意識付け	【成果と課題】 ○学生交流会や農大祭など学校行事の充実 ○小学生対象の食育活動の実施 ●役員と一般学生の意識にズレがある
		寮生活	○寮役員による自治体制の構築	○寮役員会の定期的な実施 ○よりよい寮生活を行うための全学生への意識付け	【成果と課題】 ○寮生活におけるルールづくりと実施 ●よりよい寮づくりに取り組む役員とルールを守れない一部の学生との意識の差が大きい
	出口対策 (進路達成)	進路実現	○学生の希望に応じた100%進路実現 ○進路指導体制の確立	○進路指導計画に基づいた早期の対応と学生への意識付け ○ハローワークとの連携 (カウンセリング、ガイダンス) ○法人との就職相談会(マッチング)の実施	【実績】 ○進路決定100% 《就農32名 研修2名 就職19名 進学1名》
		担い手の確保	○スムーズな就農支援体制の確立 ○就農率6割以上	○就農コーディネーター・法人関係団体との連携によるスムーズな就農支援 ○法人等での積極的な職場体験の実施	【実績】 ○就農者数32名(就農率60%) 《自家農業11名・法人就農21名》

	評 価 項 目		平成28年度目標	目標達成のための方策	昨年度の主な実績・成果と課題
各 学 科	アグリビジネス学科	学科目標 (育てる学生像)	○将来、【土地利用型農業生産法人】、【集落営農法人】、【6次産業企業法人】を、中核的職員として「担う」または「自ら経営する」人材の育成	○先進的な法人経営体や関連企業での短期研修等の実施 ○水稻、小麦、露地野菜の栽培管理技術の習得 ○農畜産物加工技術及び食品衛生管理、食品表示知識の習得 ○農業機械等の各種資格取得の推進 ○販売実習における流通、販売の知識技術習得	【取組】 ○農業生産法人での短期実習(5日間) ○関連企業等への校外学習 ○地域イベントでの販売実習の実施 【課題】 ●短期研修、校外学習受入れ企業等の選定 ●雨天時における販売実習対応
		プロジェクト学習	○地域課題に即したプロジェクト課題設定と組み合わせ、生産部門(大規模経営コース)と加工部門(グリーンライフコース)との連携による【農業生産法人「アグリビジネス学科」】の経営安定	○試験研究、普及と連携した課題の設定 ＜＜大規模経営コース＞＞ ○水稻、小麦、原料かんしょ、露地野菜の各部門に配置した学生リーダーを中心としたプロジェクト学習の実践 ＜＜グリーンライフコース＞＞ ○校内で生産される農畜産物の活用を中心に自らの計画に基づく加工実習の実践	【取組】 ○形跡管理システム導入による作業の効率化 ＜＜大規模経営コース＞＞ ○各部門に学生リーダーを配置したほ場運営の実践 ＜＜グリーンライフコース＞＞ ○農大産の米粉、果樹、かんしょ、ハーブ、そばを活用した加工品の研究 【課題】 ●作業舎内の継続した整理整頓や清掃 ●小麦の安定生産(2,000kg以上) ●農作物、ほ場の適期管理
		特色ある取組	＜＜大規模経営コース＞＞ ○市場出荷に加え、地域企業や法人との契約栽培等による、小麦、水稻、露地野菜を組み合わせた経営管理技術の習得 ＜＜グリーンライフコース＞＞ ○校内6次産業化への取組や地域企業・法人との連携、実習による商品開発、マーケティング、流通、製造技術の理解促進	＜＜大規模経営コース＞＞ ○連携協定を締結した農業生産法人組織での短期実習、研修の実施 ＜＜グリーンライフコース＞＞ ○軽トラ市など地域のイベントを活用した、消費者との交流や試作品アンケートの実施	【取組】 ○冷凍加工用さといもの機械化体系実習 ○小麦に続く、地域企業との連携品目拡大 ○「軽トラ市」や「鍋合戦」への参加による地域の活性化 【課題】 ●5日間連続した実習、研修時間、学生移動手段の確保 ●マドレーヌ、クッキーに続く農大新商品の開発

	評価項目		平成28年度目標	目標達成のための方策	昨年度の主な実績・成果と課題
各 学 科	園芸経営学科	学科目標 (育てる学生像)	○経営管理手法の習得 ○法人経営体を支える人材の育成 ○即戦力のある人材の育成 ○多様な品目の栽培管理技術の習得	○「複式簿記演習」による複式簿記記帳の理論と記帳の実際についての学習、「経営の分析と診断」による経営分析、改善手法の習得 ○法人を対象とした「インターンシップⅠ」や校外学習による、法人における栽培の実際や法人で取り組んでいる品目等について栽培技術の習得 ○「園芸学演習Ⅰ、Ⅱ」により、施肥の方法、病虫害診断等の学習、「篤農家に学ぶ栽培の実際」による実際の栽培手法等の学習 ○栽培実習による宮崎県の主要品目についての栽培管理手法の学習	【取組】 ○農大にあるトマト、メロン、キク、温州ミカンを題材に、栽培に生かせるような工夫をしながらの講義を実施 ○児湯果樹技術員会、野菜、花き成績検討会等における情報の共有 ○複式簿記の学習、所得確保のための営農方式・計画の作成 ○法人、篤農家、総合農業試験場で校外学習を実施 ○GAP取組の一環として形跡管理の取組 【課題】 ●経営管理手法について、複式簿記の習得から営農計画の作成と一連の流れの中で学習を実施したが、習熟度に大きな差 ●栽培管理技術について、体系的な学習が必要
		プロジェクト学習	○PDCAによる自ら考え取り組む体制の充実	○栽培実習やプロジェクト学習の定期的に発表会や現地検討会の実施による学生自ら課題解決に当たる体制の充実 ○「コーチング演習」により、2年生が1年生に対する課題解決へ向けての講義や演習による、より深い知識の習得の習得	【取組】 ○プロジェクトの早期のまとめと実施状況のリアルタイムでの把握 【課題】 ●学生自身による作業スケジュールの作成

		特色ある取組	○コース、学科を越えた幅広い品目の栽培技術習得 ○一年次の前期、学科全体で、野菜、花き、果樹・茶について幅広い学習 ○栽培実習による、複数品目の栽培について実習	【取組】 ○農業法人での短期実習の実施 ○園芸学演習における露地品目等複数品目についての栽培実習 【課題】 ●播種から収穫までの体系的、計画的な実習の実施
--	--	--------	---	--

	評価項目		平成28年度目標	目標達成のための方策	昨年度の主な実績・成果と課題
各 学 科	畜産経営学科	学科目標 (育てる学生像)	○即戦力として地域の畜産を担う人材の育成	○農業情勢の変化や国際化の進展等に対応した実務者等との連携による実践的なカリキュラムの編成 ○各学生の進路希望に沿った効果的な校外学習等の実施及び大学等との連携による高度な技術と経営管理能力の習得 ○学生の進路実現を図るための自主的活動への誘導とインターンシップや会社訪問等の効果的な実施によるきめ細かな支援の実施	【取組】 ○就農・就職後に活用できる資格取得の促進 ○先進大規模農家や法人、畜産関連企業と連携した校内外学習の実施 【成果】 ○即就農4名、研修後就農2名、法人就農9名、農業団体3名、公務員3名 ○家畜人工授精師21名、家畜体内受精卵移植師8名、2級削蹄師21名、家畜商15名 【課題】 ●学科・専攻再編に対応した、入学生にわかりやすい教育計画の作成と入学定員の確保
		プロジェクト学習	○収益性向上を目指した課題設定とプロジェクト学習を通じた生産技術の習得と経営能力の育成 ○コンソーシアム方式による効果的な学習体制の構築	○「宮崎県畜産新生プラン」の目指す姿(①生産性の向上、②生産コストの低減、③販売力の強化等)の実践 ○農業高校、大学、試験・研究機関及び食品関連企業等と連携した課題の設定と学習体制の整備	【取組】 ○畜産試験場や宮崎大学と連携した未利用資源の活用や地域の課題等のテーマを設定 【成果】 ○乳肉複合コースの研究発表が、校内プロジェクト発表会で最優秀賞となり、九州大会に出場 【課題】 ●農業高校等と連携したプロジェクト学習の推進

11		特色ある取組	○家畜防疫知識の習得と実践 ○地域の実務者と連携した効果的かつ実践的な学習 ○地元企業と連携した乳加工品や精肉等の生産・販売の学習	○基本的な衛生・防疫知識の習得と日々の衛生・防疫作業の励行 ○宮崎大学等の施設を活用した衛生・防疫学習の実施 ○地域における先進的な法人等と連携した研修や校外学習の実施 ○乳業メーカーや食肉関連企業及び関係法人と連携した加工・流通・販売に関する学習の強化	【取組】 ○臨床獣医師による衛生・防疫指導 ○次世代型農場チャレンジファーム研修への参加 【成果】 ○第2回校内形跡管理コンテストで肉用牛コースが1位、乳肉複合コースが3位を獲得 ○良質乳生産施設認証制度に継続して取り組み、連続認証を達成 ○乳業メーカーや食肉関連企業と連携し、農大市・農大祭にて農大産アイスクリームや牛肉を販売 【課題】 ●衛生・防疫意識の向上と地域事業者との加工・販売に関する取組の推進
----	--	--------	--	---	--